

エピソード74

保護者と連絡がとりづらくなりました

このエピソードでは、教職経験10年目、30代女性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん
教師を目指して勉強中



先生は、特別支援学級を担当して10年目だそうですね。

はい、私は、今年の春から、新しい小学校へと異動しました。異動したての4月、小学校では住所・名前・連絡先などを記入した児童調査票を回収します。

竜くんの保護者が、締め切りが過ぎても提出をしないので、電話をかけました。何度か電話をかけるうちに、出してもらえないことがだんだんと増え・・・連絡が取りづらくなりました。

保護者の年齢は40代。共働きのご家庭で三姉弟のお子さんを育てていました。弟くんは、2歳で認定こども園に通っています。おもにお母さんが学校とのやりとりをしていましたが、仕事とお家のことでいっぱいになってしまいうこともあったようで、提出物は遅れることが多かったようです。



3人お子さんがいて、一番下のお子さんが2歳だと、子育てが大変ですね。

担任からの連絡を嫌がられるようになってしまったらどうしようかと不安になりましたが、教頭先生に相談して、自宅へ行って顔を合わせて話してみると・・・。



どうでしたか？

竜くんのこと、お姉ちゃん、弟くんの話や地域のことなどいろいろなことをたくさん話して教えてくれました。本当はお話好きだったのです。



そうでしたか、それは良かったですね。

ジュリさんの気づき



この先生から、「当初は電話に出ない日もあったお母さんですが、今は学校から着信があると折り返してくれます。顔を合わせて話すことの大切さを改めて感じたのでした。」と伺いました。

たしかに、顔を合わせて話すことが大切ですね。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)